

い草の産地を守る！ い草に茶染加工を施した茶染畳表の開発

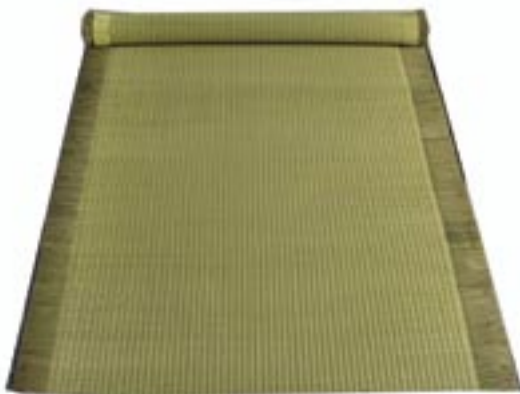
筑後地方は畳の材料となる「い草」の生産地として知られています。この地で創業 40 年、当初より「花ござ」や「上じき」の生産を行ってきた株式会社トーシンの新しい取り組みが、九州経済産業局から「地域産業資源活用事業計画」として認定を受けました。(平成 23 年 9 月 30 日)

今回は、新商品「茶染畳表」にかける意気込みと地域への思いを、田中社長に尋ねてみました。

「茶染畳表」の開発

株式会社トーシンは昭和 46 年大川市にて創業し、筑後地域の特産物であるい草を使用した花ござ等の生産・卸売を行ってきました。い草を使用した新商品開発にも積極的に取り組んできましたが、今回、住環境の「清潔」「安全」が求められる市場ニーズがあることに焦点を絞り、これも筑後地域の特産品である八女茶の茶葉を使った「茶染加工」の染色技術の開発に成功しました。

い草に「茶染加工」を施すと、どんないいことがあるのでしょうか？



今回開発した「茶染畳表」
従来品よりも深い緑色をしています



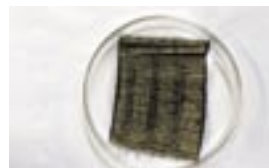
ユニットラグなどの加工品にすることもできます

「茶染畳表」の特徴

い草に高い吸湿性と空気の浄化作用があることは知られていますが、さらに「茶染加工」することによって「長期間の抗カビ効果」と「消臭効果」を付与することができます。その効果については、久留米工業高等専門学校において試験を実施しました。国産のブランド畳表との比較でも、抗カビ・消臭効果に顕著な効果が見られ、茶カテキン類をい草の芯まで浸透させた「茶染加工畳表」の優位性が実証されています。特に生ゴミの臭いである硫化水素には強い消臭効果を発揮するようです。

また、茶の落ち着いた染色が日本人の生活に身近なお茶のイメージとも相まって、他の畳表にはない深い風合いを醸し出していることも特徴のひとつです。

地域資源活用事業計画では、この「茶染畳表」とその加工品を全国に展開するとともに、生産体制を強化するための設備増強を図ることとしています。



無加工畳表



茶染畳表

アスペルギルス・ペニシリウム・クラドスポリウム の 3 種のカビについて抗カビ試験を実施。

無加工畳表にはカビが一面に繁殖したが、茶染畳表には、5 週間を経ても全く繁殖が見られなかった。

国産い草の現状

こうした商品を開発した背景を伺うと、田中社長の地域に対する深い思いを知ることができました。

「20年前、作付け面積筑後地区2,000haありましたが、現在、筑後は26haにすぎません。生産農家は20人くらいです。これでは日本一の花ごぞとか言っても、言葉だけでしかありません。どうか地域の特産品としてのい草の復活を目指したいと思うようになりました」



田中範久氏

い草の畳は日本特有の文化ですから、素材も当然日本製と思いがちです。しかし、日本国内で使用されている製品の70%が中国産のい草で作られているのが現状です。特に国産品と指定しなければ中国産のい草が使用される時代になってしまいました。

「中国産の畳表でも国産とほとんどデザインが一緒で、一見して国産との区別が付きません。価格の面ではやはり中国製に軍配が上がりますが、品質の面では歴史のある国産品にはかないません」

田中社長が「茶染畳表」の開発を思い立ったのは、こうした状況が背景にあります。

「今回お茶で染めたものは深いグリーンです。消費者の誰が見ても国産と分かるものを作りたいかった」



手前がい草生元草 後方が茶染加工したもの



茶染め加工をしているところ

産地を守る

自社の経営安定はもちろんですが、田中社長には何より生産農家のことが気がかりなようです。「現在、機械も技術ももっている農家がまだいる。そのためには、農家の収入を上げなければならぬ。5年後の売上目標を達成できれば、およそ3haの増産が見込める。できれば10haくらい増やすつもりで臨みます」

高度成長期には、い草は「青いダイヤモンド」と言われていたそうです。所狭しとい草が作付けされており、辺り一面緑の絨毯だったとのこと。「ロウソクの火を消してはならない」そう語る田中社長の言葉に、い草の産地を守り続ける強い決意を感じました。

(文責：企業支援室 秋月武敏)

お問い合わせ先

企業名：株式会社トーシン

所在地：大川市大字下牟田口123

TEL：0944-87-3012